

前回(第3回)に委員よりいただいた御意見への対応案

前回(第3回)の主な御意見	対 応 案
・各事例の情報量が乏しい。	・各事例の紹介において、アンケートの回答や追加のヒアリングによって得られた設計のプロセス、建物概要、諸元、平面図等の情報を追加した。
・工夫した点、苦労した点などのプロセス、コンセプトを記述した方が良い。アンケート調査結果を活用しても良い。	・各事例の紹介において、設計コンセプト、プロセスや写真等のキャプション、解説に追記した。
・㎡単価のばらつきに関する説明があった方がより良い。	・事例ごとに財源種別を追記した。
・カテゴリーを分かりやすくした方が良い。	・カテゴリーを見直し、ウェット系、ドライ系、産学連携、学生実験とした。
・ウェット、ドライの区分の仕方を検討した方が良い。	・区分方法を見直し、ウェット又はドライの実験室面積の大きな方に区分することとした。なお、区分にあたって、ドライの実験室面積は、ドライ実験室と研究員、院生室の面積の合計面積とした。
・質問紙調査の結果は、図表と共に表記した方が良い。	・図表とともに記述した。
・4章と5章を関係付けられると良い。	・留意点の前段に留意点の考え方の記述案を示す予定。
・事例紹介は、テンプレート化した方が良い。	・テンプレートを基に作成し、様式の統一感を持たせた。
・平面図等にはスケールがあったほうが良い。	・平面図等の通り芯に寸法等を追記した。
・専門的用語は、用語の解説があった方が良い。	・用語の解説を追記した。
・オープン、交流の誘発、フレキシビリティは研究施設において重要。	・各事例の紹介において、オープン、フレキシビリティ、コミュニケーション、セキュリティ/セーフティの4つのキーワードを設定し、コメント等を追記した。
・ステークホルダーでチームを組んで進めるべきということは、施設の安全衛生に関する報告書にも示した。つながるようなコメントがあると良い。	・留意点において記述案を示す予定。